

試験研究発表(要旨)

○ スギF₁クローン低密度植栽試験の検証

ー 見えてきたエリートツリーの実力 ー

森林環境部 研究専門員 永吉 健作

従来品種に比べて格段に成長の早いエリートツリーは、低密度植栽や下刈り期間の短縮など、造林・育林の低コスト化を実現するためのツールとして関係者の注目を集めている。

当センターでは、他機関との共同プロジェクト研究の一環として、スギF₁クローン低密度植栽試験地を設定しているが、当該試験地には群を抜く初期成長で知られるエリートツリー「九育2-203」を含む31系統の開発品種が植栽され、5成長期が経過している。

本発表では、鹿児島に植栽されたエリートツリーがどのような初期成長を示したのか、県選抜の精英樹との比較を試みながら、植栽後5年間の軌跡について報告する。

○ ヒサカキの優良個体選抜に関する研究

資源活用部 研究専門員 河内 眞子

本県ではヒサカキは墓花として利用されているが、関東では年間を通じて神棚に供えられている。国内の生産量は全国的には増えてきているものの、慢性的に供給不足となっており、需要の約9割を中国産が占める状況となっている。このため、市場からは品質の良い国内産のヒサカキの供給が望まれている。

市場から求められる個体の特徴はどのようなものか？関東への新規出荷を目的に、本県の風土にあった市場価値の高い優良個体を選抜する。

今回、県内の自生地や生産者圃場から、優良個体候補を収集し、さし木により栽培しているので、これまでの過程について中間報告する。

○ 奄美大島の小面積帯状伐採地における天然更新について

森林環境部 主任研究員 和田 将和

奄美地域においては世界自然遺産登録に向けた取組が進められており、林業においても自然環境に配慮した森林施業が求められている。

近年、奄美大島北部のリュウキュウマツの混交割合が高い森林においてはマツの有効利用と速やかな森林再生(天然更新)を図るために小面積伐採(帯状)を実施している。

その伐採形状や立地条件等の違いが天然更新に及ぼす影響について調査を行っているので伐採後5成長期経過までの結果を報告する。また、天然更新における有用樹育成を図るため、更新初期に先駆種の除伐を試みたので、その効果についても報告する。